

麻疹まじなひの辨

立春
大吉 鉄牛和尚宿

如此認めて張るべし

禅家の枯僧鉄牛和尚元來伴何某
とて勇猛無双の武士なり故有て四頂黒衣にさぬと交諸国と修行をせし
折飛弾国の山中にかり思へば路を失ひ夜ふ入りしむる宿もなけ
とて或大樹の洞に入りて打卧するが丑満ともなりし頃一陣の
魔風樹木を動じたるその物音に驚き覺るる中より外
を尋に夜又の如き者二個濁る声音と出し是より日本の
諸國小渡り我が麻疹の道と流布せんとするや居
るや鉄牛叔へ麻疹の惡神とてや
一棒を授けて彼等に驚怖させんむや
うの中より飛出一棒臂を延て二神と
か相て如意とあてうちさすも麻疹神大
ひふかきと我とてうく手づらふも何者ぞとせ
くともめくは見え鉄牛かくと打笑ひ我天下
の活僧鉄牛なり汝等とて殺してよの愁と拂
んと思ふやと呼つるまに下ん深く
をれ命いふ助もなきや
名を門口に張る家ある必ら
ばも入るべしと誓言と立
けし鉄牛ややくは
放ちやに是より鉄牛が
名を紙ふかして張る家
より麻疹の病決
入るべし

半俗外史記 四四

横山三
菊市板

一龍齋
北乃豊画

野兼

